

青森県経済統計報告

平成 30 年 4 月 27 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 30 年 4 月 1 日現在)..... 1

県 人 口 1,266,899 人 (対前月 6,674 人減少)

自然動態 1,002 人減少 (出生者数 617 人、死亡者数 1,619 人)

社会動態 5,672 人減少 (転入者数 3,685 人、転出者数 9,357 人)

2 本県の経済動向 (平成 30 年 2 月・3 月の経済指標を中心として)

(1) 経済概況

本県経済は、緩やかに回復している。

景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは48.2、先行き判断DIは49.0と、いずれも50を下回った。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 30 年 2 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整済指数が 109.8 で、前月比 2.7%の上昇となり、6 カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 99.7 で、前年同月比 0.6%の低下となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・平成 30 年 2 月の**定期給与**は 217,625 円で前年同月比 0.8%減となった。 ... 3
総実労働時間は 150.8 時間で前年同月比 0.6%減、**所定外労働時間**は 10.8 時間で前年同月比 7.7%減となった。
 ・平成 30 年 3 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.33 倍で、前月を 0.01 ポイント上回った。
- (2-3) 物 価 平成 30 年 3 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 101.7 となり、前月比 0.3%の下落、前年同月比 1.4%の上昇となった。 ... 5
 また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.6 となり、前月と同水準、前年同月比 0.7%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 ・平成 30 年 2 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 125 億円で前年同月比 0.2%増となり、9 カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.1%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。 ... 6
 ・平成 30 年 3 月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出数**は 6,098 台で、前年同月比 3.7%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。
 ・平成 30 年 3 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 527 千人で前年同月比 5.0%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 107 千人で前年同月比 3.9%減となり、5 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 ・平成 30 年 2 月の**新設住宅着工戸数**は 257 戸で、前年同月比 14.2%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。 ... 7
 ・平成 30 年 3 月の**公共工事請負額**は 70 億 4,100 万円で前年同月比 40.0%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 平成 30 年 3 月の**企業倒産**は、件数は 8 件で前年同月比 60.0%増となった。 ... 8
 負債総額は 11 億 7,600 万円で前年同月比 345.5%増となった。

(3) 景気動向指数CI (平成 30 年 2 月分) 9

先行指数 130.5 (前月を 4.1 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した)
 一致指数 184.6 (前月を 1.8 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した)
 遅行指数 125.2 (前月を 3.1 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成 30 年 4 月期) 10

3 カ月前と比べた景気現状判断DI...48.2(前期比 3.1 ポイント減、2 期ぶりで 50 を下回る)
 3 カ月後の景気先行き判断DI.....49.0(前期比 3.8 ポイント減、5 期ぶりで 50 を下回る)

1 青森県の推計人口（平成30年4月1日現在）

【概況】

平成30年4月1日現在の本県推計人口は、1,266,899人で、前月に比べ6,674人の減少となった。

○自然動態

出生者数が617人、死亡者数が1,619人で、1,002人の減少となった。

○社会動態

転入者数が3,685人、転出者数が9,357人で、5,672人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然増減数			社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
						出生者数	死亡者数				
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
29. 4. 1	1,282,545	602,241	680,304	-0.485%	-6,246	-900	665	1,565	-5,346	3,993	9,339
29. 5. 1	1,282,136	602,187	679,949	-0.032%	-409	-803	624	1,427	394	3,420	3,026
29. 6. 1	1,281,461	601,833	679,628	-0.053%	-675	-752	738	1,490	77	1,366	1,289
29. 7. 1	1,280,651	601,351	679,300	-0.063%	-810	-674	643	1,317	-136	1,193	1,329
29. 8. 1	1,279,829	601,046	678,783	-0.064%	-822	-672	651	1,323	-150	1,699	1,849
29. 9. 1	1,278,997	600,700	678,297	-0.065%	-832	-742	669	1,411	-90	1,685	1,775
29.10.1	1,278,581	600,560	678,021	-0.033%	-416	-565	721	1,286	149	1,578	1,429
29.11.1	1,277,949	600,252	677,697	-0.049%	-632	-790	712	1,502	158	1,455	1,297
29.12.1	1,277,086	599,949	677,137	-0.068%	-863	-793	649	1,442	-70	974	1,044
30. 1. 1	1,276,120	599,503	676,617	-0.076%	-966	-831	674	1,505	-135	943	1,078
30. 2. 1	1,274,940	598,945	675,995	-0.092%	-1,180	-1,062	708	1,770	-118	973	1,091
30. 3. 1	1,273,573	598,360	675,213	-0.107%	-1,367	-940	626	1,566	-427	962	1,389
30. 4. 1	1,266,899	594,949	671,950	-0.524%	-6,674	-1,002	617	1,619	-5,672	3,685	9,357

3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平20.3	21.3	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3	28.3	29.3	30.3
自然 動態	出生者数	844	814	847	797	742	704	745	737	743	665	617
	死亡者数	1,327	1,327	1,447	1,579	1,498	1,501	1,475	1,461	1,483	1,566	1,619
	自然増減数	-483	-513	-600	-782	-756	-797	-730	-724	-740	-900	-1,002
社会 動態	県外からの 転入者数	4,045	4,158	4,069	2,887	3,822	3,440	3,923	3,806	3,828	3,993	3,685
	県外への 転出者数	9,894	9,211	8,558	5,920	8,691	9,110	9,050	9,159	9,102	9,339	9,357
	社会増減数	-5,849	-5,053	-4,489	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346	-5,672
増減数計		-6,332	-5,566	-5,089	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857	-6,077	-6,014	-6,246	-6,674

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

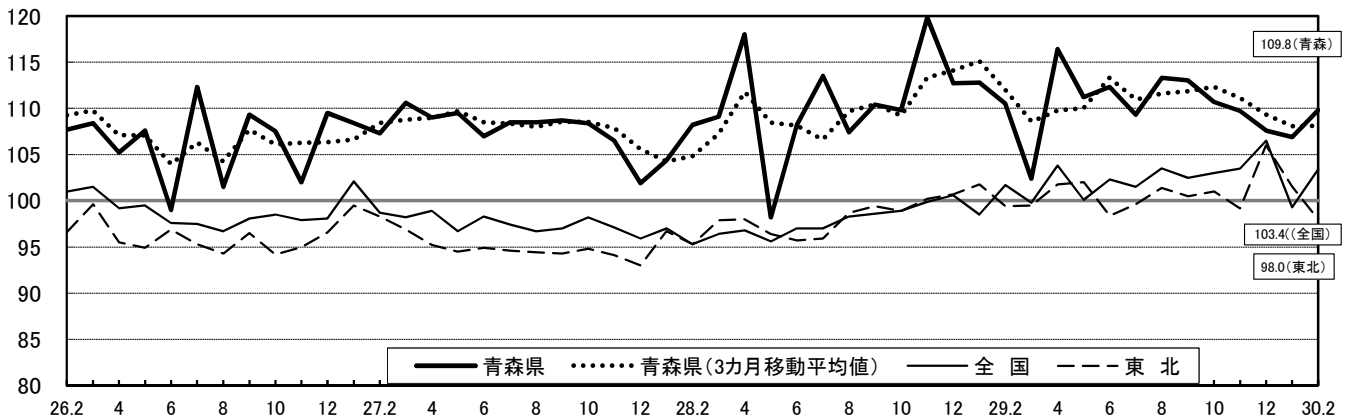
(2-1) 生産動向

平成30年2月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が109.8で、前月比2.7%の上昇となり、6カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は99.7で、前年同月比0.6%の低下となり、4カ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、生産用機械工業、業務用機械工業、輸送機械工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、その他製品工業、電子部品・デバイス工業などが低下し、鉱工業全体では2.7%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

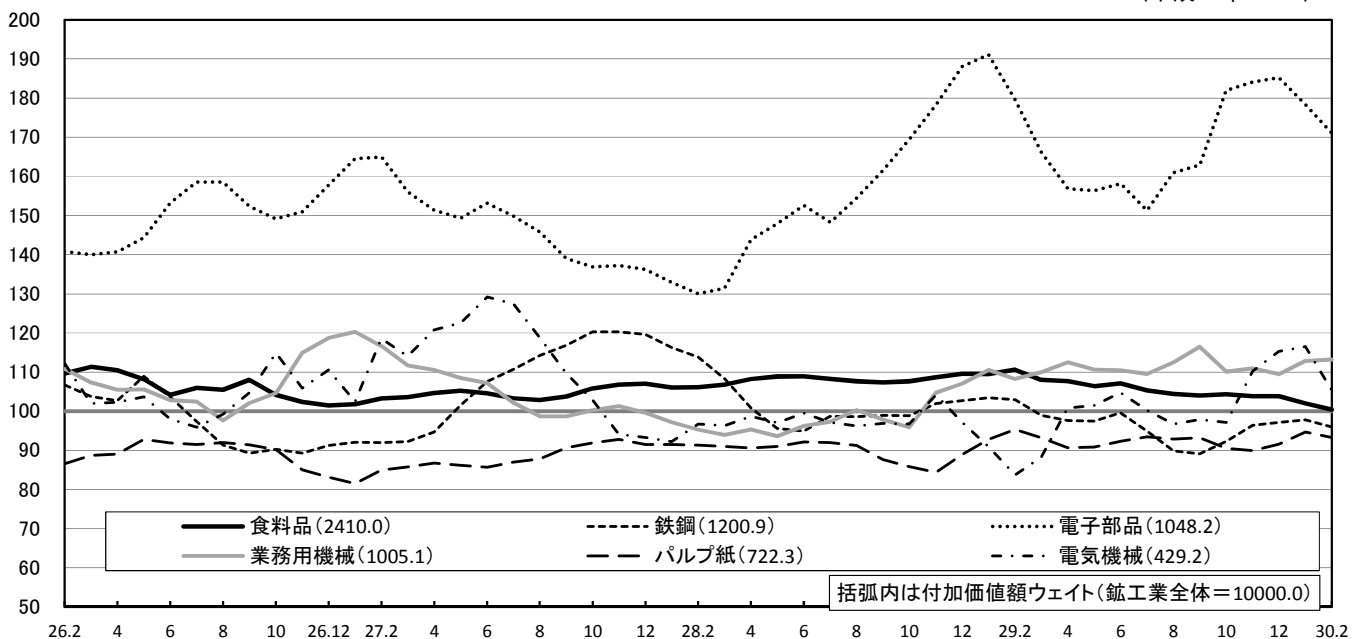


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 2.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
生産用機械工業	118.0	125.8	化学工業	-51.5	-70.1
業務用機械工業	18.6	92.8	その他製品工業	-73.3	-63.8
輸送機械工業	47.7	75.9	電子部品・デバイス工業	-3.9	-34.1
金属製品工業	40.3	75.8	電気機械工業	-14.5	-30.8
非鉄金属工業	3.5	5.9	パルプ・紙・紙加工品工業	-7.7	-25.2

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



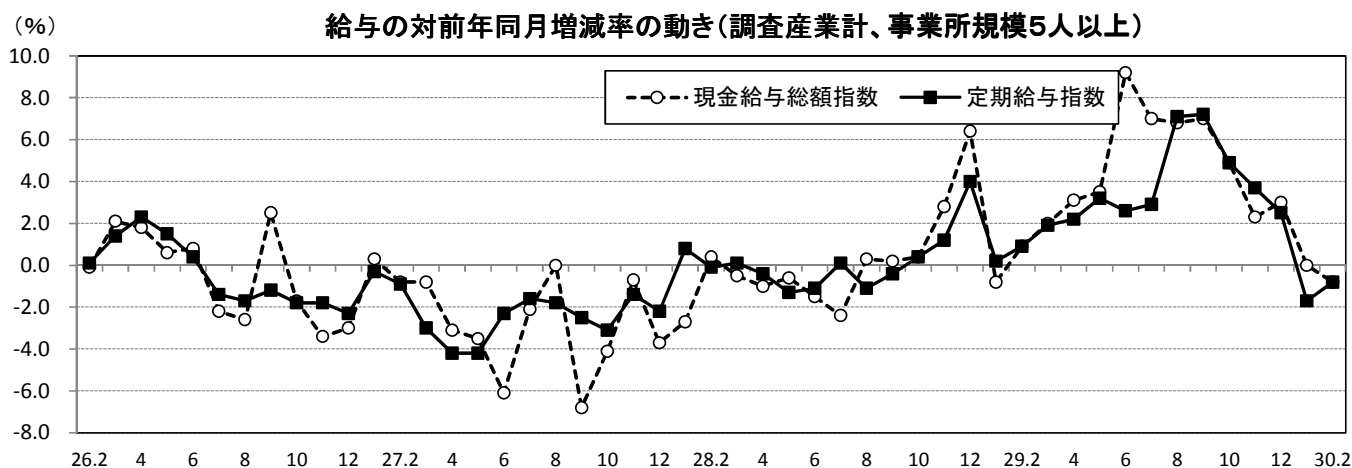
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成30年2月の定期給与は217,625円で、定期給与指数（平成27年=100）では100.7となり、前年同月比0.8%減と2カ月連続の減（現金給与総額219,193円、現金給与総額指数87.3、前年同月比0.8%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は83.5となった。

総実労働時間は150.8時間で、総実労働時間指数は97.5となり、前年同月比0.6%減と15カ月ぶりの減となった。このうち、所定外労働時間は10.8時間で、所定外労働時間指数は93.9となり、前年同月比7.7%減と15カ月ぶりの減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

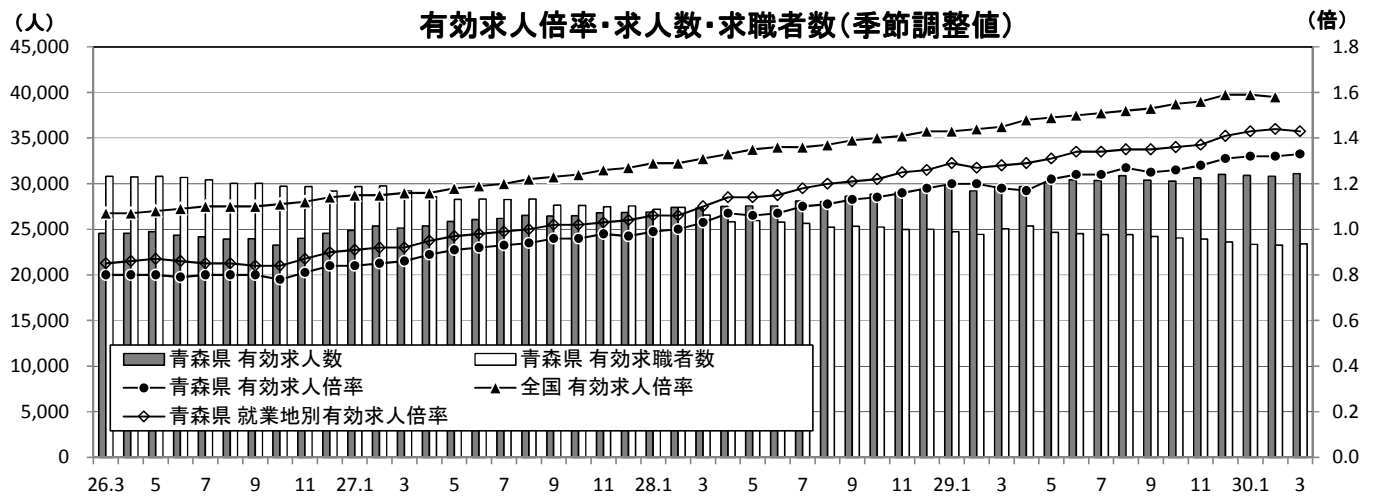
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	219,193 円	265,434 円	87.3	84.7	-0.8 %	1.0 %
定期給与	217,625 円	260,571 円	100.7	100.5	-0.8 %	0.6 %
特別給与	1,568 円	4,863 円	—	—	—	25.7 %
総実労働時間	150.8 時間	139.0 時間	97.5	96.2	-0.6 %	-2.2 %
所定内労働時間	140.0 時間	128.2 時間	97.8	96.0	0.0 %	-2.4 %
所定外労働時間	10.8 時間	10.8 時間	93.9	98.2	-7.7 %	-0.9 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

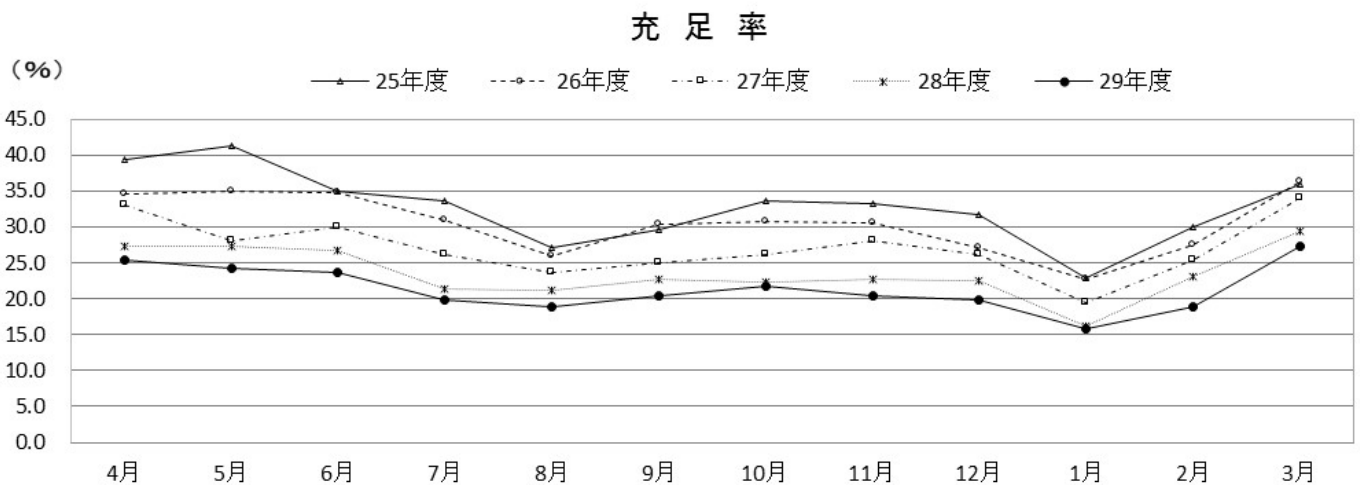
(2-2-2) 有効求人倍率

平成30年3月の有効求人倍率（季節調整値）は1.33倍で、前月を0.01ポイント上回り、過去最高の水準となった。就業地別有効求人倍率は1.43倍で、前月を0.01ポイント下回った。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

平成30年3月の充足率は27.3%で、前年同月と比べ2.1ポイント下回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」※充足率=充足数/新規求人数

(2-3) 物価

平成30年3月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が101.7となり、前月と比べ0.3%の下落、前年同月と比べ1.4%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.7となり、前月と同水準、前年同月と比べ1.4%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.6となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.7%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮野菜など)、家具・家事用品(家庭用耐久財など)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、食料(生鮮野菜など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

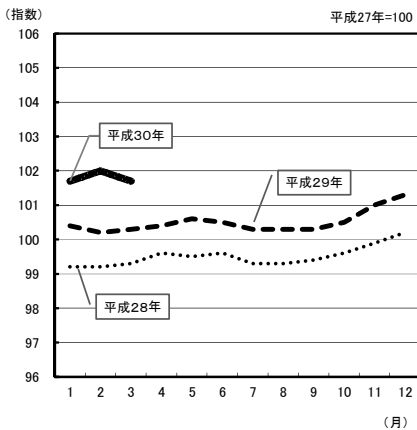


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

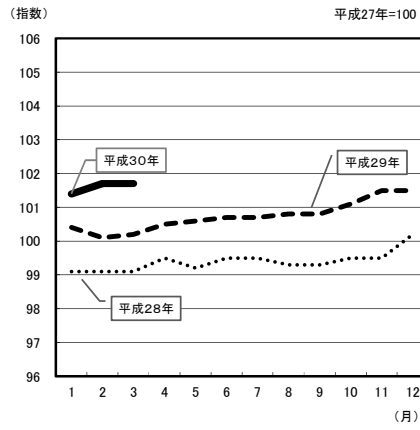
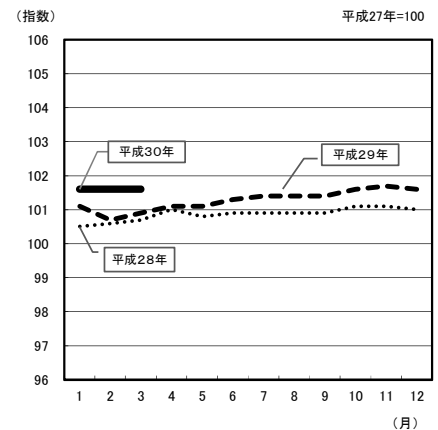


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服	服	保	健	交通・通信	教育	教	養	諸
	合	品	品	料	料	品	居	道	用	履	物	医	療	信	育	娛	楽	費
当月指数	101.7	101.7	101.6	100.4	104.8	102.0	99.9	101.3	100.1	100.0	102.0	99.1	102.5	101.4	101.8			
前月比(%)	▲0.3	0.0	0.0	0.0	▲1.2	▲5.4	0.0	0.1	▲0.5	0.9	0.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0			
寄与度	—	▲0.03	▲0.03	0.02	▲0.33	▲0.27	0.00	0.01	▲0.02	0.03	0.01	0.01	0.00	▲0.01	0.00			
前年同月比(%)	1.4	1.4	0.7	0.6	1.4	1.5	▲0.2	5.8	0.4	1.2	1.8	2.0	0.5	0.0	0.9			
寄与度	—	1.36	0.56	0.35	0.40	0.07	▲0.04	0.62	0.02	0.04	0.07	0.25	0.01	0.00	0.05			

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

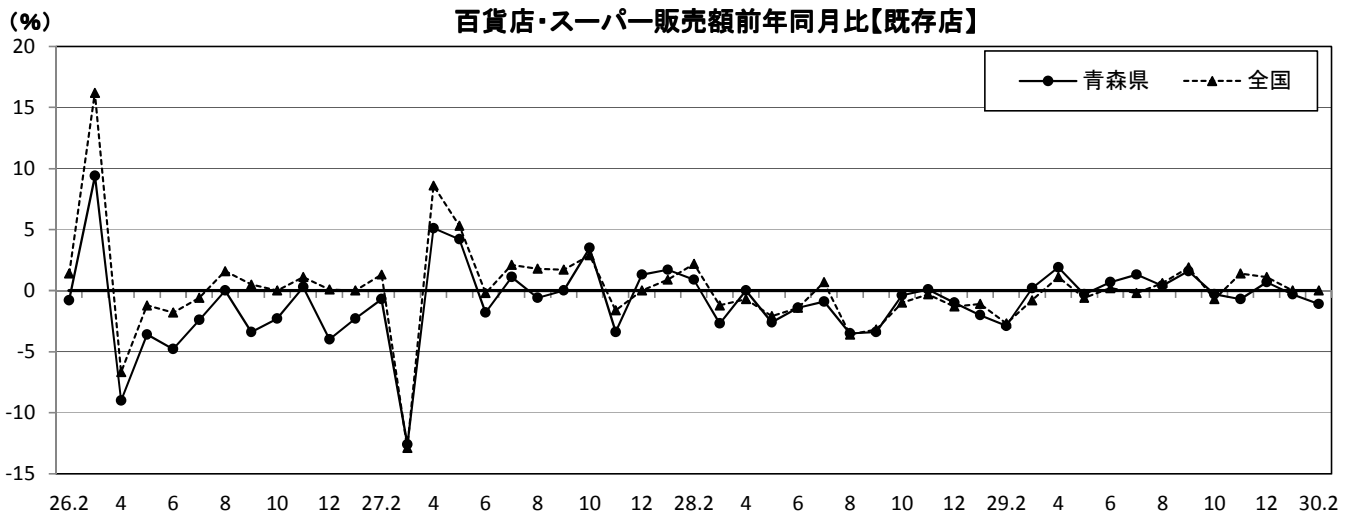
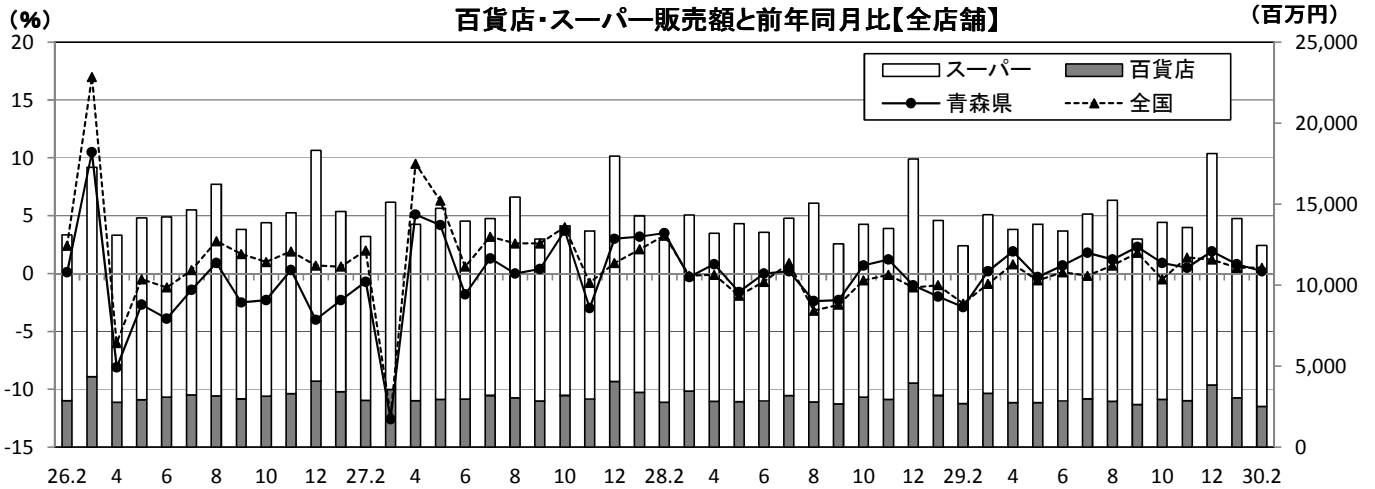
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

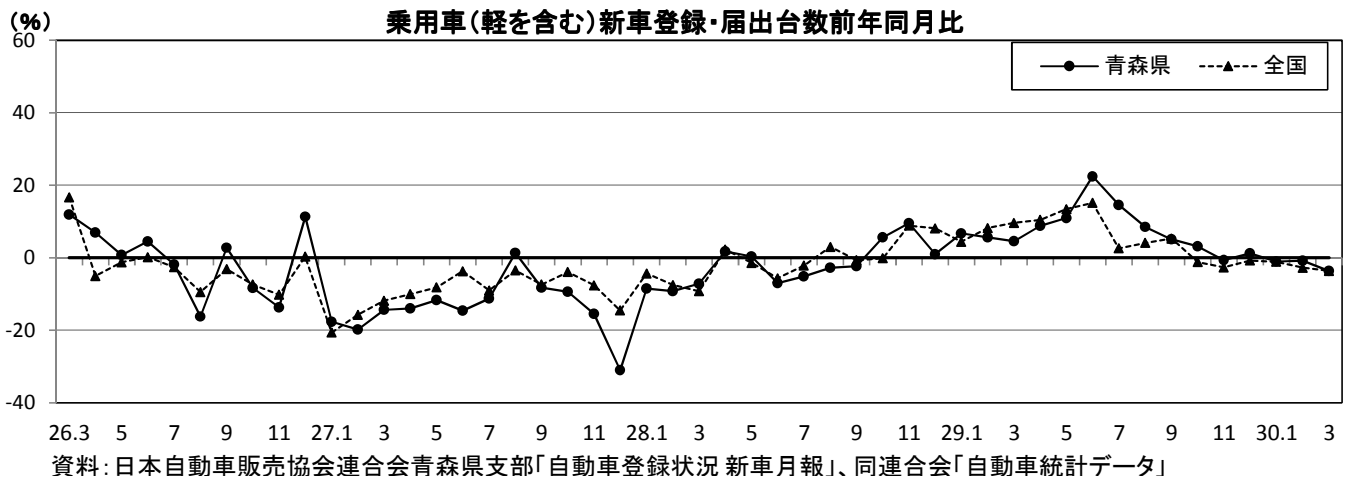
平成30年2月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが125億円と前年同月比0.2%増となり、9カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.1%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

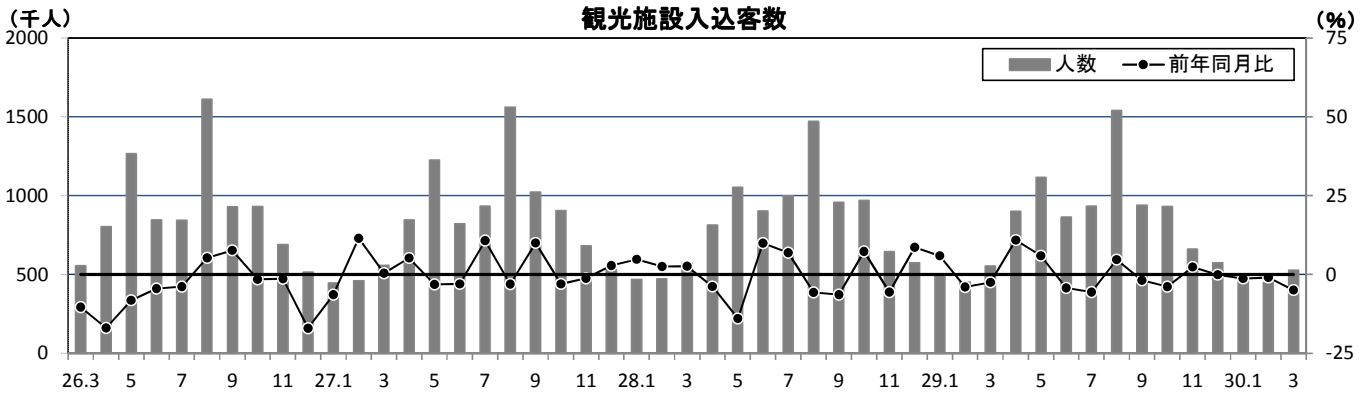
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成30年3月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は6,098台で、前年同月比3.7%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。小型乗用車が減少したことによる。

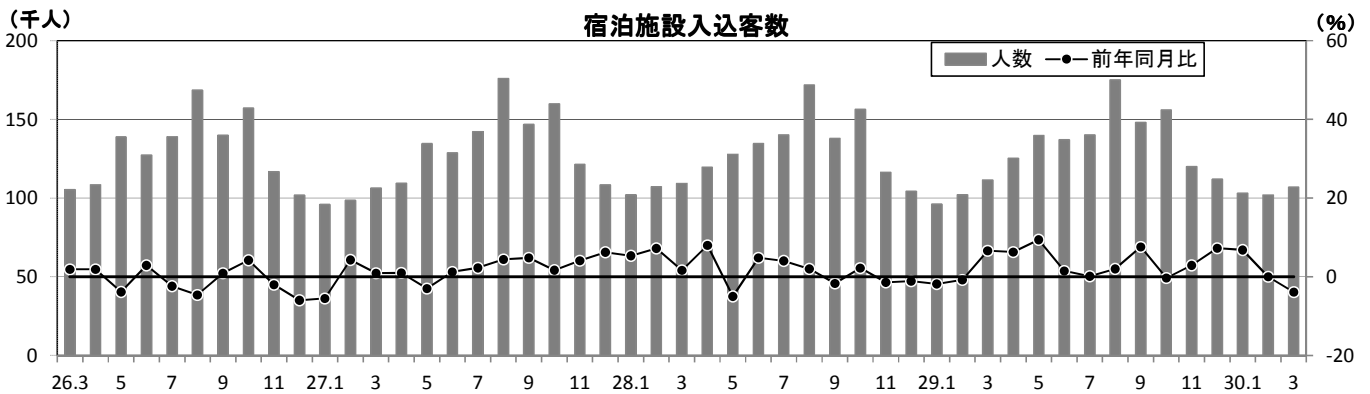


(2-4-3) 観光入込客数

平成30年3月の観光入込客数は、主な観光施設が527千人で前年同月比5.0%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は107千人で前年同月比3.9%減となり、5カ月ぶりに前年同月を下回った。観光施設は青森市、八戸市、むつ市等の施設で減少し、宿泊施設は弘前市、八戸市等の施設で減少したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

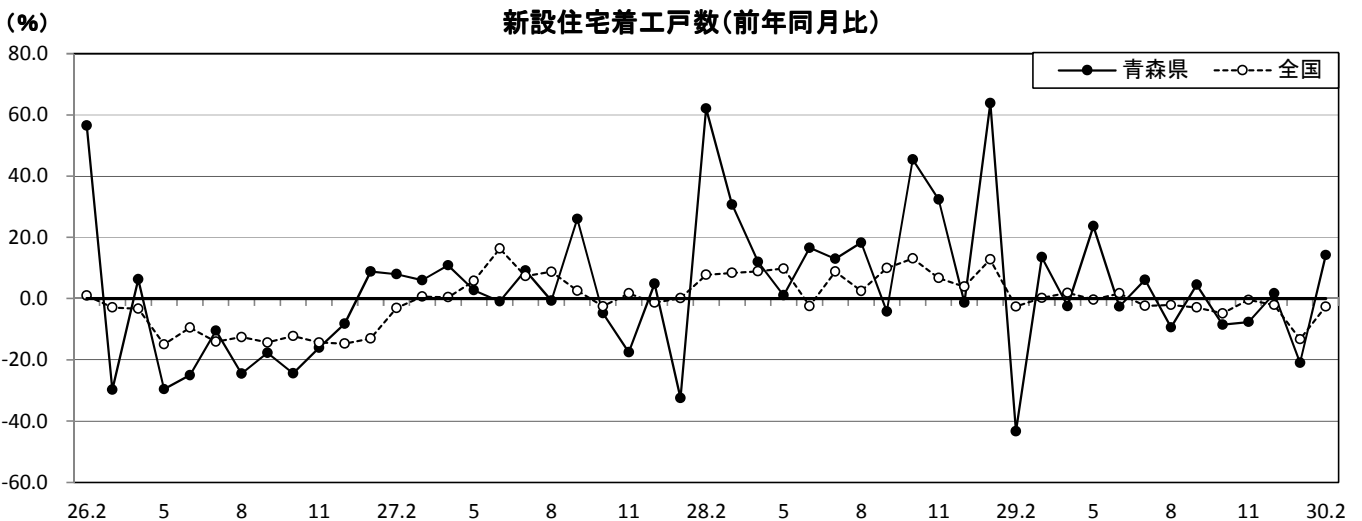


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設53施設（H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1～6月は54施設、H28年7月以降は53施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

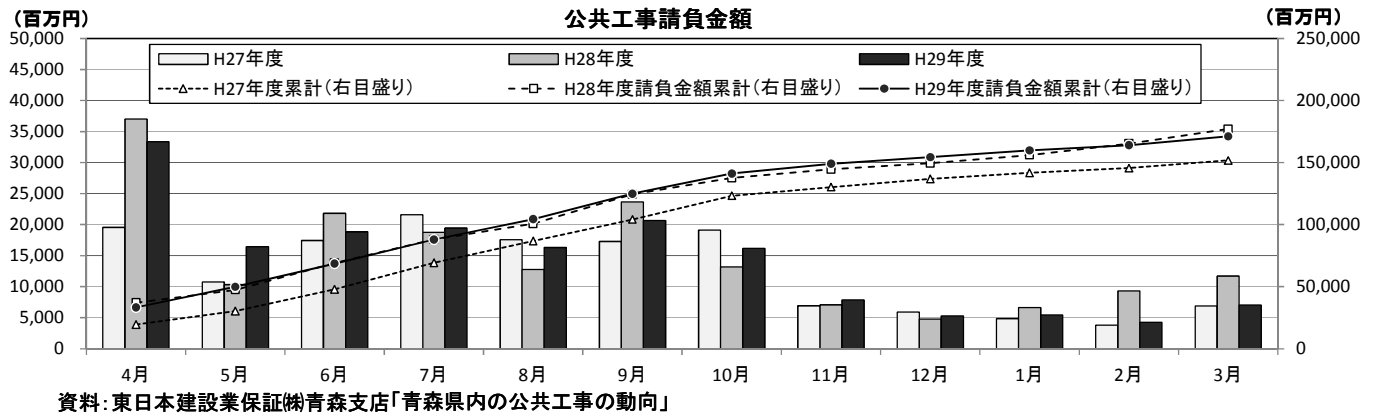
平成30年2月の新設住宅着工戸数は257戸で前年同月比14.2%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。持家、貸家、分譲住宅が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

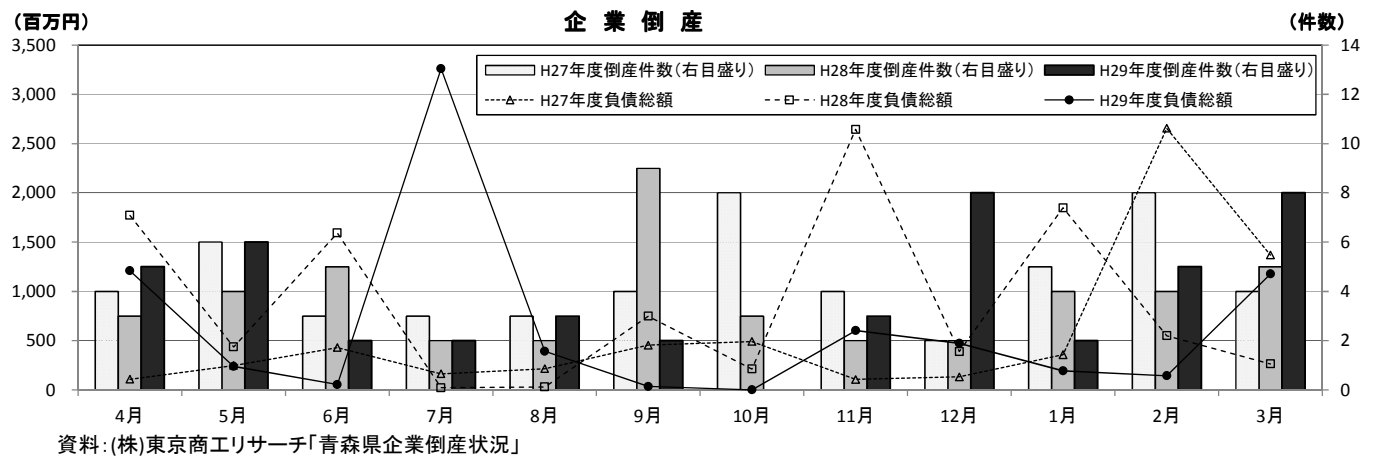
(2-5-2) 公共事業

平成30年3月の公共工事請負金額は70億4,100万円で前年同月比40.0%減となり、国、市町村の減少により3カ月連続で前年同月を下回った。また、平成30年3月までの累計金額は1,711億6,700万円で前年同期比3.3%減となった。



(2-6) 企業倒産

平成30年3月の企業倒産は、件数は8件で前年同月比60.0%増となった。負債総額は11億7,600万円で前年同月比345.5%増となった。また、平成30年3月までの累計倒産件数は46件で前年同期比2.2%増、負債総額は77億8,000万円で前年同期比26.0%の減となった。



(3) 青森県景気動向指数

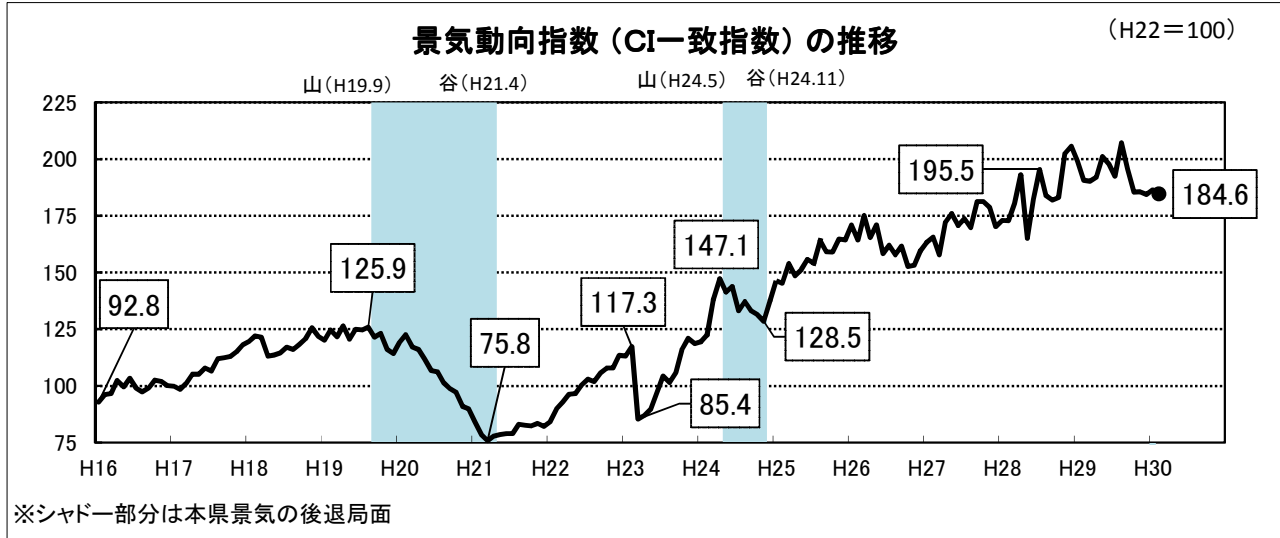
平成30年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 130.5、一致指数 184.6、遅行指数 125.2 となった。

先行指数は、前月を 4.1 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 1.8 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 3.1 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

2 月の一致指数は雇用・消費関連の指標がマイナスになったことから下降した。



● 個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	3.17	2カ月ぶり	企業倒産件数	-2.86	2カ月ぶり
新設住宅着工床面積	1.57	2カ月ぶり	建築着工床面積	-0.35	3カ月連続
生産財生産指数	1.43	5カ月ぶり			
中小企業景況DI	0.83	4カ月連続			
日経商品指数（42種）	0.08	5カ月ぶり			
乗用車新車登録届出台数	0.06	2カ月ぶり			
一致系列					
投資財生産指数	2.21	2カ月連続	有効求人倍率（全数）	-2.77	2カ月連続
鉱工業生産指数	1.56	6カ月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	-2.37	5カ月連続
輸入通関実績（八戸港）	0.18	4カ月連続	百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.62	2カ月連続
旅行取扱高	0.06	2カ月連続			
遅行系列					
りんご消費地市場価格	1.51	2カ月連続	公共工事請負金額	-1.34	2カ月連続
青森市消費者物価指数（総合）	1.37	2カ月連続	県内金融機関貸出残高	-0.19	2カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	1.24	3カ月連続			
有効求職者数（全数）	0.42	3カ月連続			
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	0.02	2カ月ぶり			

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

先行指数	37.5%	（3カ月連続で50%を下回った）
一致指数	42.9%	（6カ月連続で50%を下回った）
遅行指数	28.6%	（2カ月連続で50%を下回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成30年4月期)

現状判断DIは、人件費の上昇や客購入単価の減少等により、前期比3.1ポイント減少の48.2となった。

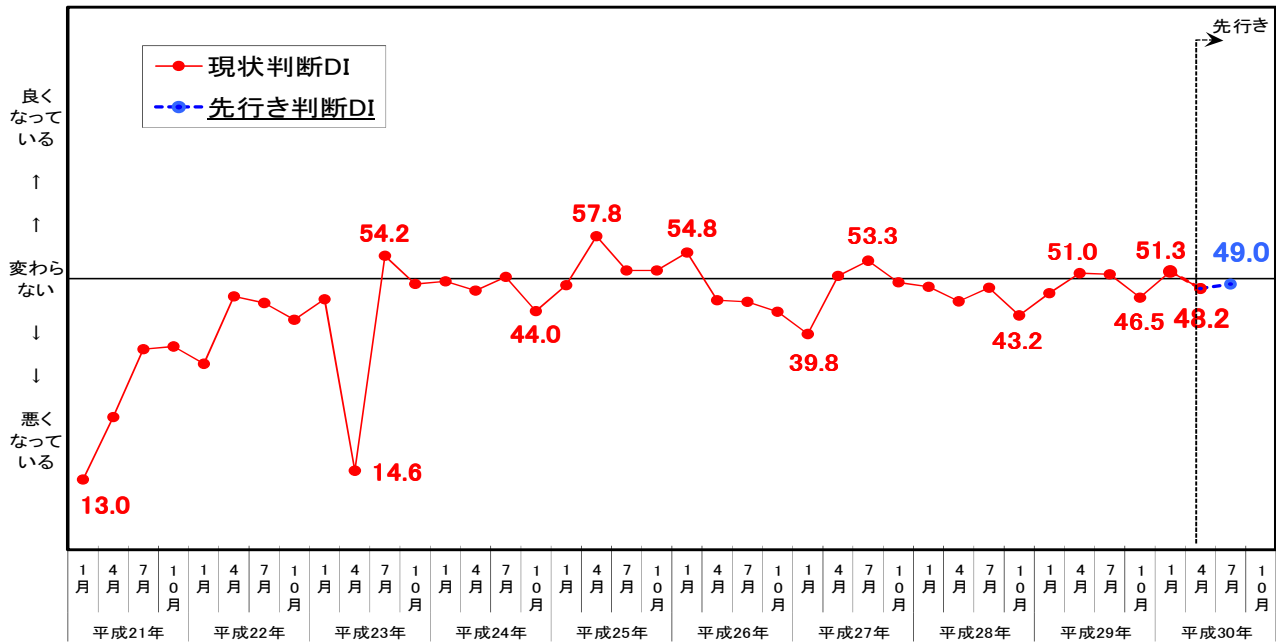
先行き判断DIは、各種イベントや消費活動活発化への期待等により、現状判断DIと比べて0.8ポイント増加の49.0となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりで下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を5期ぶりで下回った。

(調査期間 平成30年4月2日～4月16日 回答率97%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動 前期調査と比べると、「良くなっている」が1.1ポイント増加、「やや良くなっている」が4.6ポイント減少、「変わらない」が5.1ポイント減少、「やや悪くなっている」が7.5ポイント増加、「悪くなっている」が1.2ポイント増加により、全体では3.1ポイント減少の48.2となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりで下回った。

向 判断理由では、インバウンド客の増加、経済活動の活性化、賃金・所得の向上などのプラス面がある一方で、人件費を始めとするコストの上昇、客購入単価の減少などといったマイナス面をあげる声があった。

地区別では、前期調査と比べて、東青、津軽、県南の各地区でポイントが減少したが、下北地区では5.0ポイント増加した。全ての地区において、景気の横ばいを示す50を下回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動 前期調査と比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が2.5ポイント減少、「変わらない」が9.2ポイント減少、「やや悪くなる」が10.6ポイント増加、「悪くなる」が1.2ポイント増加により、全体では3.8ポイント減少の49.0となり、景気の横ばいを示す50を5期ぶりで下回った。

向 判断理由では、さくらまつり等のイベントや観光シーズンの到来、消費活動の活発化への期待等によるプラス面をあげる声があった一方で、人手不足や人件費高騰、各種値上げ等を懸念する声があった。

地区別では、前期調査と比べて、全ての地区でポイントが減少した。東青及び津軽地区では景気の横ばいを示す50を上回り、県南及び下北地区では50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3ヶ月前と比べて景気の現状判断理由

◎	インバウンドのお客が増えた。(観光型ホテル・旅館=津軽)
○	雪融けと同時に、世間の経済活動が始動。(設計事務所=東青)
○	観光客(特に外国人)が増えてきている。(商店街=津軽)
○	家を建てる市内住人(お客様)の所得が、少し上がっている(年10~20万円)。着工数は上がっても下がってもいいが、資材、物価は上がっている。(住宅建設販売=津軽)
○	人手不足や働き方改革に対応する商品・サービスを提供する取引先や、業務分野で活性を感じる。(食料品製造=県南)
□	天候も好天日が多く、客数は増えていると思われるが、客単位が低下している。将来への不安と、入学・入園等家庭経費の増える時期であると思われる。(商店街=東青)
□	全体としては弱気みながら横ばいと見る。野菜価額の高止まりから、消費がやや落ち着いた様子。(経営コンサルタント=東青)
□	景気の上昇は感じられない。販売実績も前年比を下回る。(乗用車販売=津軽)
□	少子化や天候不順・低温による影響のためか、春物商材や新生活対応商品の動きが鈍く、一般的に客数・客単価とも伸び悩んでおり、高額品や不要不急の買い物は控えているように感じるため。(百貨店=県南)
□	新社会人、進学など、家庭の中での事情で、少し動きが鈍っています。人の動きがあまり良くないようです。(美容院=県南)
□	普段のお客様の様子を見ると、特段変わった様子は見られませんが、低単価志向は変わりなく、客単価は下がり続けています。景気というよりは、節約というように感じます。(一般小売店=下北)
△	仕入価格の上昇や人手不足による賃金の上昇が、収益を圧迫している。(都市型ホテル=東青)
△	食料品(野菜)の高騰や灯油高に加え、異常な寒波による灯油消費量の増加等により、家計が逼迫され、消費が弱い。(一般小売店=津軽)
△	地域範囲での大幅な賃上げや雇用のミスマッチの解消など、景気が上向きになる要素が無い。(衣料専門店=県南)
△	宿泊も宴会も売上げが低調で、特に新年会、歓送迎会等の宴会は、件数・規模ともに前年を下回っている。(都市型ホテル=下北)
×	人事異動に係る送別会など、特定の日以外の夜の人の動きが相変わらず少な過ぎるように思う。平日夕方のスーパーマーケットは、買い物客もまばらで、必要なものしか購入していないように思える。(タクシー=東青)

○3ヶ月後の景気の先行き判断理由

◎	FIT(個人手配の海外旅行)のお客様の動きも、活発になって来ている。(観光型ホテル・旅館=津軽)
○	駅前庁舎を中心に投資が進んでいるのも理由ですが、地形に恵まれている青森県・青森市は観光、インバウンドに期待が持てる。大型客船、チャーター便などが増えたことから、街中での観光客増が実感でき、商店街も外貨獲得に動き出している。(衣料専門店=東青)
○	さくらまつり等、ゴールデンウィークへ向けての観光客等の宿泊や買い物等により、消費活動がやや活発になると思う。しかし、その後継続するかは疑問。(人材派遣=津軽)
○	消費税増税に向けて、良くなっていくのではないかと。(住宅建設販売=県南)
○	雪も融けて、いよいよ観光シーズンの始まり。人の動きに期待して。(タクシー=下北)
□	予約状況を見ても、例年と変わらず、特に伸びる要素も見当たらない。(都市型ホテル=東青)
□	定期昇給が見込めない。よって家計の経済成長がないので、現状維持と思われる。(家電量販店=東青)
□	繁忙期になる秋(10月頃)までは、変わらない予想です。(卸売業=津軽)
□	自然要素、社会要素さまざまな要因の中、はっきりつかめないのが現状です。コツコツ頑張ることがベストと思える。(一般飲食店=県南)
□	商品に大きな変化がないため、このままゆるやかではないかと思われる。(観光名所等=県南)
□	石油業界は年々数量が減少して、先も暗くなってきている。景気だけでも明るくなってくれば良いのですが。(ガソリンスタンド=下北)
△	業界の予想も厳しいが、客数が減に来ているので、大幅ではないが少しずつ悪くなると考えられる。(家電量販店=県南)
△	3月の異常気象で桜前線が早く、ゴールデンウィーク前に実質祭りが終了?(ガソリンスタンド=津軽)
△	アベノミクスの手詰まり感が増していることが、節約志向の要因となっている。内需の柱となる個人消費を盛り立て、将来の不安を拭い去るような政策に期待できないため。(ガソリンスタンド=県南)
△	地元資本ではないドラッグストアが乱立しております。お客様の分散、特売品などの購入等、ますますデフレに向かって行っているように感じられます。特売の価格でないと買いたくないと、先日聞きました。行き過ぎた安売り競争は、良いことは一つも無い気がするのですが。(一般小売店=下北)
×	食料品関連を中心とした値上げの影響が、今後ポディーブローのように効いてくると思われる。飲食店の閉店やオーナーチェンジなどの話が、盛んに耳に入ってくる。(タクシー=東青)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」